



やまゆりが咲き始めました。今年は梅雨明け前の晴れが多く、昨年より開花の勢いがよいようです。やまゆり観賞会は7月8日(日)10時からです。PTA役員が始めてくださったこの「やまゆり観賞会」は前期の大きなイベントとして定着し、地域からも100名程度の参観者が毎年いらっしやいます。ぜひ、百合丘高校自慢の「ゆり」を見にいらしてください。茶道部、料理部からふるまいもあります。また、美術部生徒作成しおりの無料配布、書道クラスの作品展示もあります。今年は学校案内にもこの「やまゆり」を載せました。「百合丘高校のゆり」として、「やまゆり」をさらに根付かせたいと思います。

さて、話は変わり、去る6月20日 株式会社リクルートマーケティングパートナーズ 総編集長の山下真司さんをお招きして、職員研修会を開催しました。内容は「高大接続改革と主体性評価、生徒に求められる能力・教師に求められる指導」です。とてもよくまとめられた講演で、入試改革や他校での取り組み事例なども学習することができました。講演は終始「これからの社会がどう変わるか」を軸にその未来で「何ができるように育てるのか」でまとめられていました。その話の中で、以下のことが印象的でした。

- ・民間で導入しているロボットが1体300万円~800万円で、一人採用した場合の年収より低い。
- ・ロボットにさせることを考えるポジションが採用場所になる。
- ・学びの軌跡を主体的に未来に、社会につなげることができる人が求められる。
- ・何を学んできたのか、それをどう生かすのかを示す「学業の活動報告」「学びの計画書」を考える思考力・判断力・表現力が必要
- ・「知識→知識整理→自分の考えを引き出す→社会や生き方につなげる」という発想を持てるか。

しかし、これらは「人づくり」の場であれば、言わずとも目指していたことです。ただ、大きく変わるのは、それが入試として測られるようになったことです。

「学業の活動報告」「学びの計画書」を一人ひとりが持つためには、日々の生活をどう重ねていたのか、何を積み重ねてきたのかを振り返らせ、未来の自分につなげる思考を持たせることだと思います。テストで測れないこの思考を無意識に積み重ねさせ、表現させることで意識に変える、そして高い表現力につなげる。そういった指導が求められています。しかし、これら是对話を通して、意識させていくこともできます。あっという間に成長する子供たちの「あっという間」を周りにいる私たち大人が、一つひとつの成長を確認するような投げかけをしていくことが必要なのだと思います。もちろん学校は学習の中でも取組を進めていきますが、ぜひ子供たちの些細な成長に「どうして、それをできるようになったの?」と問いかけてみてはいかがでしょうか。一緒に子供の未来につながる子育てをしていきましょう。